

---

## 怪話篇 第十五話 内定

K1.M-Waki

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

怪話篇 第十五話 内定

### 【コード】

N0124U

### 【作者名】

K1・M・Waki

### 【あらすじ】

就職難の中、どうにか内定を取ろうと活動続ける彼らに起こったことは...

1

「いやあ、職が決まって良かったなあ。」

「未だわかんないよ。3人ともみんな採ってくれるとも言っていないなあ。」

「あれ、鈴木、そうだったけ？」

「うん、……そういや、そんな風にも受け取れるけどなあ。」

「まだ内定が決まりかけているだけでも、ましじゃないかあ。オレなんかなあ、……オレなんか。」

「そう、沈むなよ。きつと大丈夫だ。そら、飲めよ！」

「そうさ。オレ達だって最初は酷かったんだぜ。なあ、田中よ。」

「そうそう、この間の面接の時なんかよ。無茶苦茶いうんだもんな。」

「そうだよ！うん、あの言い方は酷い。」

「確かにそうだ。何が、それぞれに抜きん出た処もない事もないだつて。」

「ふん、そりゃあそうさ。全体的に見りゃ、オレ達や並だよ、並。」

「そうさ、オレ達、超人じゃないもんな。大企業のお偉いさんとは違うかんね。」

「おー、佐藤さん。よくぞ言ってくれました。」

「おうよ、どうせオレ達や、スナックトリオよ。お手軽に使われましょう。」

「よし、よし。もっと飲め。それぞれ、飲め、このやろつ。」

「しかし、あの部長さん、妙な言い方してなかったか。」

「妙って？」

「うん、妙だったなあ、鈴木。」

「だから何が。」

「田中あ、やつぱりおまえは並だな。」

「うるさい！教えるよ。」

「あの部長さんなあ、それぞれに抜きんでた処があるって言うてくれたよな。でも、それがバラバラじゃあどうしようもないって。」

「そうさ。でも、3人とも採ってくれそうにはなかったぞ。3人とも採れなけりやあ、誰かが……。」

「そうゆう事だなあ。」

「や、やだなあ。みんな友達だろう。誰が落ちても怨みっこなしだぜ。」

「おまえ、自分が落ちててもそう言ってもらえるか。」

「そりゃあ、……良い気持ちはしないけど。しょうがないだろう。それに、方法がない事もないって言ってただろう、部長さんがきつと、3人とも無事採用されるって。」

「おまえ、相変わらず楽天的なのなあ。」

「いいじゃないか、ささ、飲もうぜ。湿っぽいのは御免だぜ。」

「おら、飲めよ垣内。ほら。」

「オレなんかなあ、内定どころか、……くそう、このぜいたくもんが！」

「うわあ、誰か垣内を押さえる！」

「オレ達が悪かったから。な、飲めよ、ほら。」

「よおし、飲むぞ！」

「てめえ、田中飲まんか。」

「ギャー、止めんか。あつ、こら。それはオレのだぞ。」

## 2

「スナックトリオ、就職決まったって？」

「おう、垣内か。それが、どうも佐藤だけパスして、田中も鈴木も駄目だった様だな。」

「ここにきて解散か。あの3人、仲よかったのになあ。あいつら、

喧嘩なんかしてないだろうな？」  
「不思議な事に静かでねえ。」  
「嵐の前の静けさかね？」  
「いや、大分会社で話し合ってたらしいから、大丈夫だろう。」  
「しかし、無情だよな。いくら決まってるからって、1人だけなんてねえ。」

3

「おい、鈴木見なかったか？」  
「さつき通ったぞ。」  
「あれは田中じゃないか。後ろ姿が田中してた。」  
「あれ、顔は鈴木だったぞ。そういや、歩き方が佐藤してたな。」  
「へ？何じゃそりゃあ。」  
「おい、垣内。スナックトリオ見なかったか。」  
「何だ？」  
「うん、さつき佐藤が落としてった。」  
「この時計は田中のだよ。ほら、この大きさが佐藤に合うとも思  
うかい。」  
「あれー。これ佐藤がしてたんだよ。あいつの腕こんなに細かった  
か？」  
「おい、鈴木見なかったか、鈴木。」  
「今度は何だよ。」  
「レポートだよ、レポート。もう鈴木に頼るしか、……おっ、  
これこれ。後でコピー頼むよ。」  
「これ、佐藤のだけ。完成させるとこまで見てた。」  
「この字は鈴木以外に考えられないよ。それに、佐藤はあの講義と  
うに諦めてて、もう出席もしてないぞ。」  
「じゃあ、何で佐藤に書けるだ。」  
「おい、変だぞ。さつき田中と握手したら、べったりしててよう、  
手の感じがまるで佐藤みたい……。」

「うるせえ！何が何だか、わかんねーぞお。ちつと静かにしろ。」  
「しかし、あの3人が……」  
「判ってるよ。だけど、いくら会社の欲しい人材がそうだからって、いきなり切り張りされてたまるか！」  
「だって、現に。」  
「じゃあ、どれが佐藤でどれが鈴木で、田中はどれなんだ？佐藤の顔して鈴木の体格した田中の声でしゃべるヤツをなんて呼んだらいいんだ？」  
「顔からして佐藤じゃないか。」  
「鼻は田中だったぞ。」  
「止めんか！いくら何でもちよつと酷い。」  
「垣内！おい、何処行くんだ。」  
「会社に掛け合つて来る。人の身体を何だと思ってるんだ。」  
「おい、待てよ。垣内、おい。」

4

「おい、垣内知らないか。」  
「うん、オレも捜してるんだ。あれから気になって。」  
「おや、あれは垣内じゃないか。」  
「そうだ。垣内、おーい待てよ。」  
「何だ？」  
「あれ、……鈴木なのか？……なあなあ、オレ達垣内を捜して……」  
「オレがどうかしたって？」  
「……田中の口。」  
「……佐藤の鼻。」  
「何だ？何か用か？」  
「……鈴木の……声……」  
「用がないなら、呼ぶなよな。オレ、今度内定が決まったんで挨拶まわりで忙しいんだ。じゃあな……ん？おまえ、なかなかいい

手してるな。」

eof .

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0124u/>

---

怪話篇 第十五話 内定

2011年10月9日03時54分発行